

## 学会発表要旨原稿作成要領

締切	2017年10月12日(木) 17時  ※ 学会発表要旨原稿はE-mailのみの受け付けです。 E-mail : jshe@naragakuen-u.jp  <u>送られた原稿はそのまま印刷されます。</u> 作成要領, フォーマットに従い, 各自責任をもって原稿を確認し送付してください。
----	--

### 【1】学会発表要旨原稿作成要領

#### 1. 口頭発表について

本大会は、口頭発表のみで実施します。発表時間は、発表 20 分、質疑応答 10 分の計 30 分です。発表方法の詳細は、申し込み完了後、改めてお知らせします。

#### 2. 発表要旨原稿の構成

発表要旨は、原則として各自の論理展開に従った見出しを付けてください。また、他の学会等で発表された内容と同じ発表内容、および要旨の使用は避け下さい。一連発表（同じ研究グループで複数の発表を行うこと）の場合にも、それぞれが完結した要旨であることが必要です。

なお、個人情報の保護に配慮し、研究協力者等の個人が特定される可能性のある記載（イニシャル、居住地、写真など）を避けるようにご留意ください。

#### 3. 原稿サイズと作成方法

- 1) 原稿のサイズは **A4 判** です。枚数は、2 枚を超えないようにしてください。
- 2) 原稿は下記「4. 発表要旨原稿の書式」および「研究発表要旨原稿テンプレート」にしたがって作成してください。日本人間教育学会ホームページ (<http://www.ningenkyoiku.org/>) に **研究発表要旨原稿テンプレート (MS-Word 用)** を掲載しています。
- 3) 原稿をメール等添付ファイルで送付される場合、PDF に変換のうえ、一度、印刷を行っていただきレイアウト等をご確認された後に、送付いただくようお願い申し上げます。(Email:jshe@naragakuen-u.jp)

#### 4. 発表要旨原稿の書式

① 「研究発表要旨原稿テンプレート」をダウンロードし作成してください。学会発表要旨テンプレートと学会誌投稿テンプレートは同じテンプレートになります。但し、ページ数は異なり、学会発表要旨は2ページ、投稿論文は8ページとなります。以下、執筆の仕方はどちらも同じです。②以下をよく読んで執筆してください。

② 1枚目は上から7行がタイトルなどの記入欄になります。副題がない場合はその行を空白にして下さい。副題が1行の場合は、1行空白にして氏名として下さい。

氏名が複数、所属が異なる場合は以下のように記載してください。

○教育太郎<sup>1</sup>・教育花子<sup>1</sup>・教育次郎<sup>2</sup>（非会員）

（<sup>1</sup>人間教育大学大学院○○研究科・<sup>2</sup>理化学研究所）

③ キーワードは重要度順に3つまで記載してください。

**タイトル**（12p, MS ゴシック体）を除き、①から③まで10.5p、フォント指定のない場合はMS明朝体で記載してください。

④ 本文は8行目から37行分、2段になります。2枚目からは、23字×44行×2段で作成してください。

⑤ 小見出し（10.5p MS ゴシック体）を除き、本文は10p MS明朝体で記載してください。但し、発表者が一部を他のフォント体で表現することを禁止しません。表やグラフを除き本文は10pで記載してください。

⑥ 図・表・写真等（モノクロに限る）は、見やすい大きさにして下さい。

⑦ 発表要旨原稿は2ページにまとめてください。また、送付された原稿はそのまま掲載しますのでご注意ください。

⑧ 引用・参考文献の記載については、以下の条件通りにして下さい。

・本文で初めて文献を記載する時は「フルネーム（発刊年）」で記載し、引用ページは（）内に記載します。

例：（該当箇所下線）

梶田叡一（2006）は、目標分析が「目標の明確化」を「具体化、現実化」し、単元目標達成のために必要不可欠な「中核目標」を明確にするために、「『単元目標分析』⇒『単元目標構造図』⇒『指導順路案』⇒『単元指導計画』⇒『各授業時限の指導略案』」の順に行うことを述べている（p.10）。

・2ページ以上にわたる場合は「（pp.10-12）」のように記載してください。

・文末に「【引用・参考文献】」欄を設けて文献著者名を五十音順に並べてください。外国の文献の場合は、著者名のアルファベットを五十音に置き換えて五十音順に並べてください。

・記載の仕方は、雑誌の場合下記のとおりです。

フルネーム（発刊年）「論文名」雑誌発行者〔論文著者と同じ場合は略〕『雑誌名』雑誌発刊先

〔出版社。出版社でなく不明の場合はなし〕

・また、書籍の場合は下記のとおりです。

フルネーム（発刊年）『書籍名』出版社

・インターネット上のデータの場合は、URL と存在確認日（西暦年月日確認）を記載してください。

具体例は以下に示します。

**【引用・参考文献】**（10.5p ゴシック体）

東洋・梅本堯夫・芝祐順・梶田叡一編（1988）『現代教育評価事典』金子書房

石井英真（2011）『現代アメリカにおける学力形成論の展開』東信堂

梶田叡一・下館市立下館小学校（1986）『形成的評価と授業改善／形成的評価による学力保障と成長保障』明治図書

梶田叡一（2006）「授業力を磨く」人間教育研究協議会編『教育フォーラム 37 号／授業力を磨く』金子書房

鳴門教育大学（2006）「授業実践力評価スタンダード（国語科）」

[http://www.naruto-u.ac.jp/05\\_kyoumu/0555\\_gp/pdf/standard/kokugo.pdf](http://www.naruto-u.ac.jp/05_kyoumu/0555_gp/pdf/standard/kokugo.pdf)（2016年8月15日確認）

**【2】著作権譲渡についての注意**

本大会では、発表論文集の発行や Web 版発表論文集の一般公開を予定しています。そのため、論文原稿登録の際に学会への**著作権譲渡**に同意をしていただく必要があります。論文原稿の送付をもって著作権譲渡に同意したものと見なしますのでご了承ください。